

死者32万人 (政府予測)
南海トラフ巨大地震
& 直下型地震の安全対策!

全20ページ (白黒ページは前のページの説明書き)です。
自然の猛威を観測し、災害を予防する (JYAN) 研 代表 國廣秀光

1P地震活動期と南海トラフ大地震

- 2年前、熊本地震が発生
- その後、鳥取地震、島根地震、大阪北部地震、北海道地震と続き、半年に1回のペースで発生！
- 南海トラフ地震では、32万人の方が無くなる。と、政府の予想ですが、地震予知は本当にできなくていいのですか？
- 今、最も、地震予知の必要性が高いと思いますが・・・

- 政府は防災対策へシフト中ですが、人名救助に最も効果的な「地震予知」を諦めて良いのでしょうか？≡誹りを受けます。

地震予知はできないって新聞やテレビで言ってるけど、本当？（答え1）

- 答え 日本地震学会や有識者会議は、たいへん困難＝ほぼできない！と、言っています。（2017年～）
- 現実 現在の地震観測は地震計が主力ですから、微動が始まってからしか判らず、地震予知はできません。
また、直下型地震では、揺れた後に地震警報が鳴っており、命の安全には役立っていません。

地震計以外に予知は、できないの？ (答え その2)

- **GPS観測** 1200ヶ所の観測点を作って、地表の動きを観測していますが、震源等の深い所の様子は判らないのです。 ×
- **海洋地震計** 東海沖から拡大中ですが成功例はありません。 ×
- **電離層観測** (民間が実験)
電波や衛星等を利用して電離層の変化から予知を試みっていますが、大まかにしか判っていません。 ×
- 気象庁は、超高感度地震計 (地震警報)、GPS観測装置、海洋観測装置等々を設置しましたが、地震予知はできていません。

何か、できる方法は無いの？

- **あります。電磁気変化の観測**です。他にも少し・・・
- 雲や光の変化を観測すれば、大地の変化が判るようです。
- 動物の変化を観測すれば、大地の変化が判るようです。
- 他は？ 音、植物等いろいろとあると思います。
- 雲・光・動物・等々は宏観異常現象に区分されています。これらは再現性が難しいため、研究者が殆どいないのが現状ですが、今後に期待されています。

可能性が高いのは、何？

- 最も確実に効率的な観測方法は「**電磁気観測**」です。
- 電磁気観測なら、数日から数週前の予知事例が多数です。
- その方法とは
- 地中の地殻や岩盤等の軋轢変化を電磁氣的に観測します。
軋轢（あつれき＝押し合いへし合い）が起きると電磁気が発生します。
（押される＝圧電気、割れる＝負電気、摩擦＝摩擦電気等）
これらの電磁気を地表で捉え、地中の変化を調べています。

Theme

地震や噴火から
唯一、身を守る方法
電磁気観測で予知実現

(電磁気観測)は、数週～3日前に、危険をお知らせできます。
自然災害を予知し、災害を予防するJYAN研 代表 (國廣秀光)

地震は、どうして起きるの？

- 理論的説明（以下は著者の地震 & 電磁気理論から説明）

- 通常の場合

地球引力の収縮と、自転や公転等で、地球自体に撓みや歪み（太陽≒17cm、月≒40cm、惑星≒少々）が起き、マグマの変遷で噴火や地殻プレートの移動が発生し、地殻や岩盤に軋轢が起きているのです。

- 軋轢が極まると、地殻に断裂等の大きな変化が発生します。

地殻等は軋轢が臨界状態になると、破壊、断層、割れ、擦れ、摩擦等の変化が起こります。この時に電磁気が多く発生しているのです。

地殻の軋轢が極まると、どうして電磁気が発生するの？

- 地殻に臨界的な変化が起きると、下記の電磁気が発生します。
- 押される = 十の圧電気が発生
- 引き剥がされる = 一の負電気が発生
- 擦れる = 摩擦電磁気が発生
- 割れる = パルスやノイズが発生
- 物体が動けば、必ず、電磁気が発生しています。

地震前に起きる電磁気って、 どんな現象なんですか？

- ラジオ ノイズ等で聞こえない
- テレビ & リモコン 勝手に着いたり消えたり
- カーナビ 方向やナビが狂ってしまう
- 電波時計 時間が狂ってしまう
- 電柱から火花 バチッと火花が飛ぶ
- 動物（カラス含む） 騒いだり居なくなったり

地象を電磁気観測で災害予防！

地震予知情報

地割れ山崩れ

南海トラフ

火山噴火

3～7日前に**通知可能！！！！**

危険度と推移が判ります。

観測網敷設で**予知可能**です。

専用観測で判ります。

電磁気観測網なら**予知可能**！

(地中と地上の観測)は、私達の電磁気観測にお任せ下さい。

自然の猛威を観測し、災害を予防するJYAN研 代表 (國廣秀光)

どんな電波や電磁気を観測する？

- 地下（アース）からは
ラジオにノイズが出たり、車に触るとバチッと電磁気が飛んだりする電磁気です。
- 地上の電波は
ノイズパルスが出たり、電波が強弱の変化を起こす電磁界と電波を観測します。
- 上空の電波は
電離層の変化で、電波が強弱等の変化を起こすのを観測します。

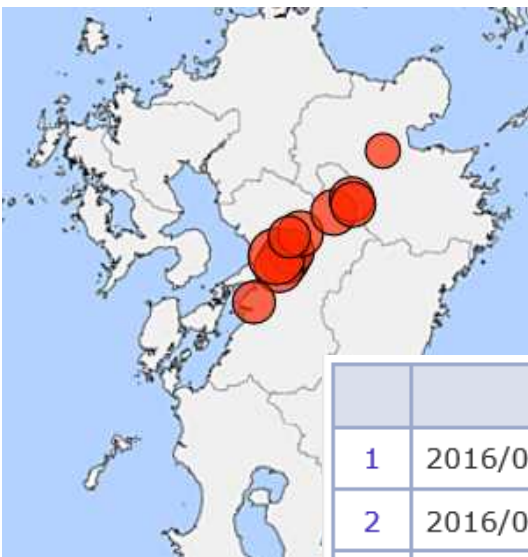
どうして予知できるの？

- 下中上の電磁気観測から3原則が予測できます。
3原則とは、いつ=日程、どこで=県等、大きさ=震度
- 地震前（数日～数週前）に電磁気が変化します。
地震の規模や、震源の深さ、岩盤質等で電磁気が変化します。
- 経験則（数日～数週前）で地震を予知できます。
異常は3日～15日前の場合が多く計算式で3原則を求めます。

では、**実際の観測例**をご覧ください。

- **まずは、2年前の熊本地震からです。**
- **熊本地震は、地震発生後に前震、本震と言い変わった地震です。**
- **この電磁観測では、世界初の素晴らしい発見がありました。**
- **大きい地震は、必ず「連続震」が起きています。**

熊本地震は2週間に10回の大揺れ 大地震は殆ど「連続地震」



熊本では(4/19)までに
震度7が2回

6強が 2回

6弱が 3回

5強が 3回

合計10回

	地震の発生日時	震央地名	緯度	経度	深さ	M	最大震度
1	2016/06/16 14:21:28.2	内浦湾	41°56.9'N	140°59.2'E	11km	M5.3	6弱
2	2016/04/29 15:09:34.3	大分県中部	33°15.4'N	131°22.0'E	7km	M4.5	5強
3	2016/04/19 17:52:13.6	熊本県熊本地方	32°32.1'N	130°38.1'E	10km	M5.5	5強
4	2016/04/18 20:41:57.9	熊本県阿蘇地方	33°00.1'N	131°11.9'E	9km	M5.8	5強
5	2016/04/16 09:48:32.6	熊本県熊本地方	32°50.8'N	130°50.1'E	16km	M5.4	6弱
6	2016/04/16 03:55:53.0	熊本県阿蘇地方	33°01.5'N	131°11.4'E	11km	M5.8	6強
7	2016/04/16 03:03:10.7	熊本県阿蘇地方	32°57.8'N	131°05.2'E	7km	M5.9	5強
8	2016/04/16 01:45:55.4	熊本県熊本地方	32°51.7'N	130°53.9'E	11km	M5.9	6弱
9	2016/04/16 01:25:05.4	熊本県熊本地方	32°45.2'N	130°45.7'E	12km	M7.3	7
10	2016/04/15 00:03:46.4	熊本県熊本地方	32°42.0'N	130°46.6'E	7km	M6.4	6強
11	2016/04/14 22:07:35.2	熊本県熊本地方	32°46.5'N	130°50.9'E	8km	M5.8	6弱
12	2016/04/14 21:26:34.4	熊本県熊本地方	32°44.5'N	130°48.5'E	11km	M6.5	7

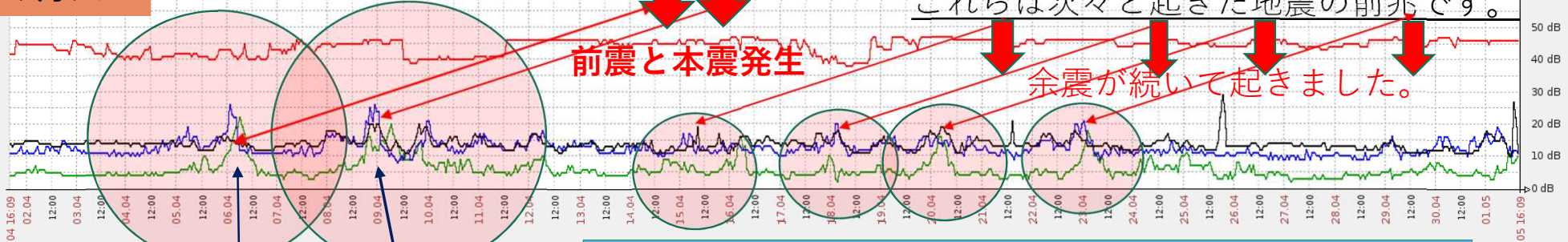
余震は誤表現で連続震の違い

- 余震とは、余った地震エネルギーの発散と思われれます。
- しかし、実際は、最初の地震に匹敵するくらい大きい地震が次々に起きています。
- 従って、これらの大地震は、余震では無く、連続震なのです。
- 大きい地震ほど連続震は多く長期になります。
- 次は、[熊本地震の観測例](#)です。

4/6&4/9日時点で地震を予知した証拠グラフ

1ヶ月グラフ

Jya... Taketa City (1m)



前震と本震発生

余震が続いて起きました。

これらは次々と起きた地震の前兆です。

4月6日と9日に、特別に大きな異常の観測をしました。大きい地震が2回来ると判った！貴重な観測データです。14日には地震に備えて竹田に行っていました。その後の余震も異常と地震が連動しています。(100%捕捉です)

4日間グラフ



青が+16dBの揺れ

青が+16dBの揺れ

青 = 熊本が、6日と9日に平常11dB~26dBへ上昇

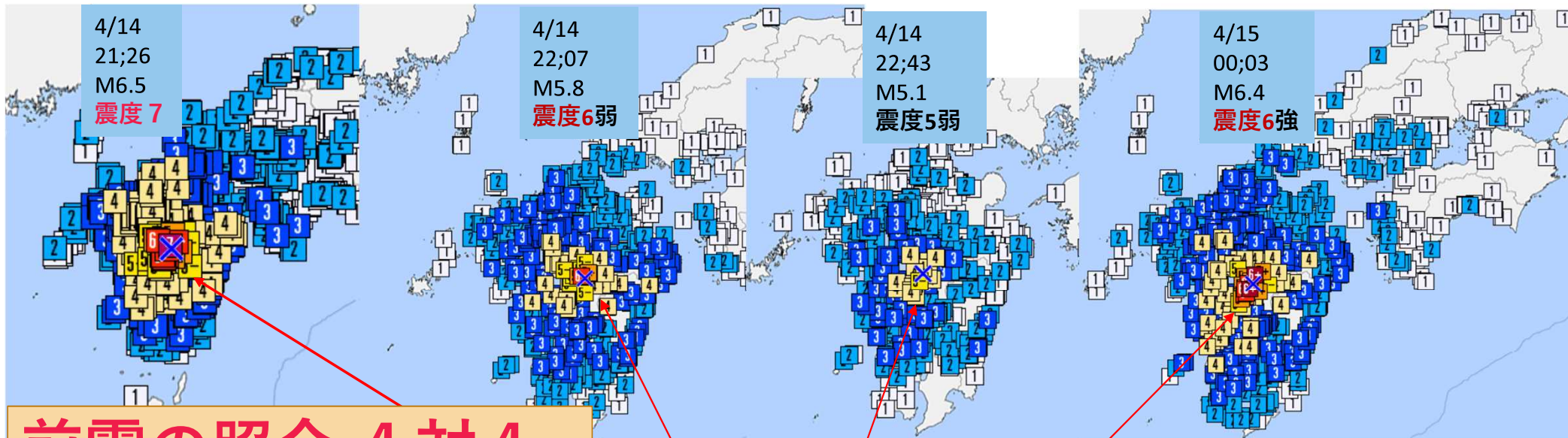
上図は4月の1ヶ月グラフです。下のグラフは両方を記録した4日間の電界強度グラフです。

JF6	79.7MHz FM Ehime	10 dB	0 dB	3.99 dB	22 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	11 dB	0 dB	9 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FMOita Taketa	46 dB	28 dB	43.41 dB	47 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	11 dB	0 dB	12.25 dB	29 dB

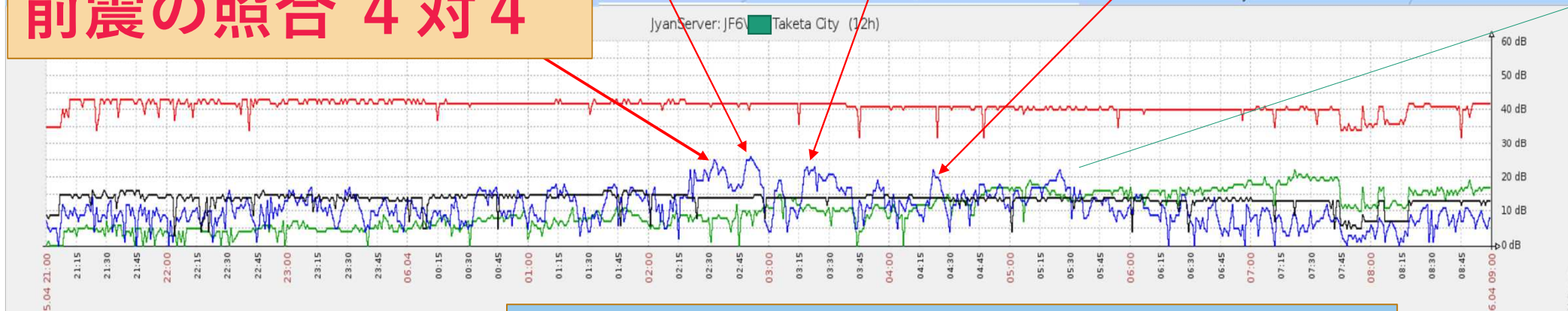
JF6	79.7MHz FM Ehime	9 dB	0 dB	5.98 dB	22 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	6 dB	0 dB	9.67 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FMOita Taketa	46 dB	31 dB	42.45 dB	46 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	12 dB	0 dB	12.80 dB	20 dB

パーフェクトに観測できた例(熊本地震)

- このGraphは熊本地震の前・本震を1週間前に観測しました。
- 横軸は1ヶ月間です。縦軸は電界強度のグラフです。(色は各電波)
- 青色は、熊本ー竹田間のグラフで、大きい変化がありました。
- 経験則では、大きく変化すると \approx 1週間後に地震が起きています。
- 大きな変化が2回の1週後、前震・本震の地震が起きました。
- 余震も異常の \approx 1週間後に地震が起きています。



前震の照合 4 対 4



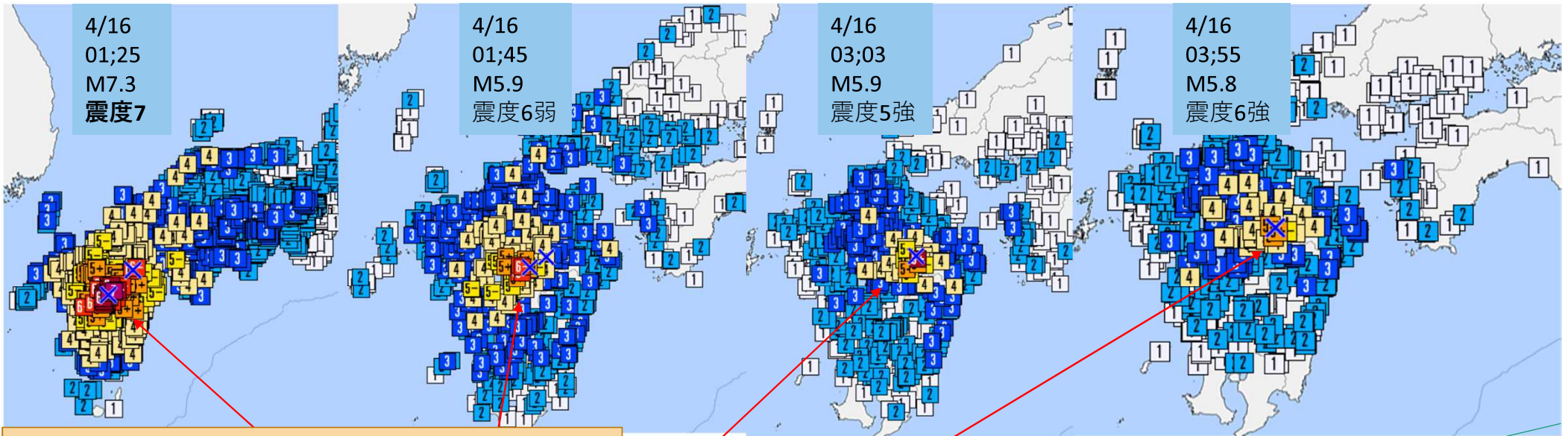
JF6	79.7MHz FM Ehime	17 dB	0 dB	10.10 dB	22 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	8 dB	0 dB	10.94 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FM Oita Taketa	42 dB	32 dB	41.02 dB	43 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	13 dB	3 dB	13.38 dB	16 dB

異常ピークと地震の回数・時期・大きさ等がほぼ一致した！

上の震度図は気象庁発表の地震資料です。

前震 異常ピーク 4回 = 4回の地震発生

- 3時間以内に限定すると、4回の地震が起きています。
- これは、余震では無く、連続的な地震です。
- 一週間前の観測Graphにも4回の異常ピークがありました。
- 最も大事
1週間前に、前震(4回の大地震)を**完全に予知**できたのです。



本震の照合 4対4～

JyanServer:JF6 Taketa City (12h)



異常ピークと地震の回数・時期・大きさ等がほぼ一致した。

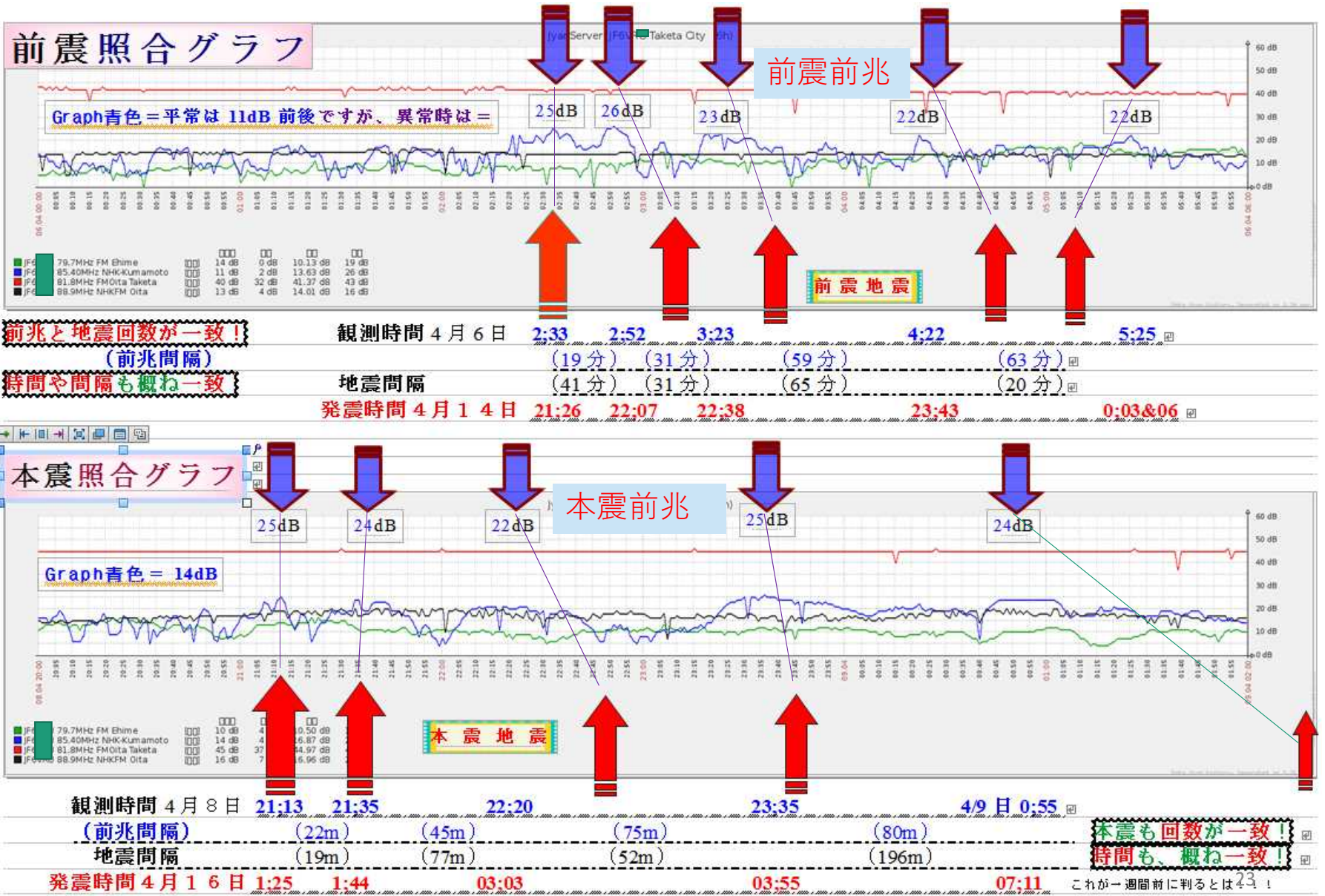
JF6	79.7MHz FM Ehime	□□□	6 dB	0 dB	10.37 dB	16 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	□□□	9 dB	0 dB	13.40 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FM Oita Taketa	□□□	45 dB	36 dB	44.78 dB	46 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	□□□	12 dB	4 dB	15.21 dB	20 dB

上の震度図は気象庁発表の地震資料です。

本震 前兆 4 回で地震が 4 回でした。

- 1 週間前に、本震の連続震 4 回が判っていたのです。
- しかも、**大きさや時分的な間隔**も予想できるのです。
- これは、大発見（世界的）でした。

熊本地震前震の本震の次は何分後判る

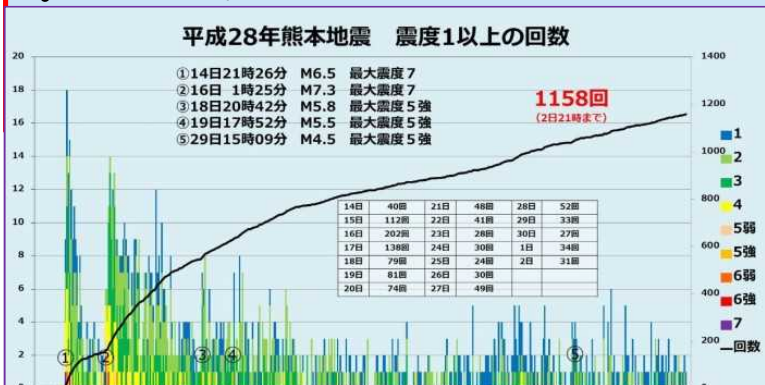


時系列で照合しました。 **完全合致**です。

- 前震の4回の前兆と実際の地震の時系列照合が一致です。
- 次に本震4回の前兆と実際の地震の時系列照合が一致です。
- どちらもぴったりと合っていることが判ります。
- しかも、**次は何分後か？まで予測できます。**（観測網が必要！）
- これは、世界初の大発見なのです。こんな予知が本物ですよ。
- 現他社の予知情報は、発生場所や発生日時がぼけて(網掛けが多く)信頼される情報とはなっていません。参考地震前兆現象を科学する(2015/12)織原 義明、長尾 年恭

熊本-大分連続大地震 (2016-4/14~16~)

死者200人 避難者18万で長期間



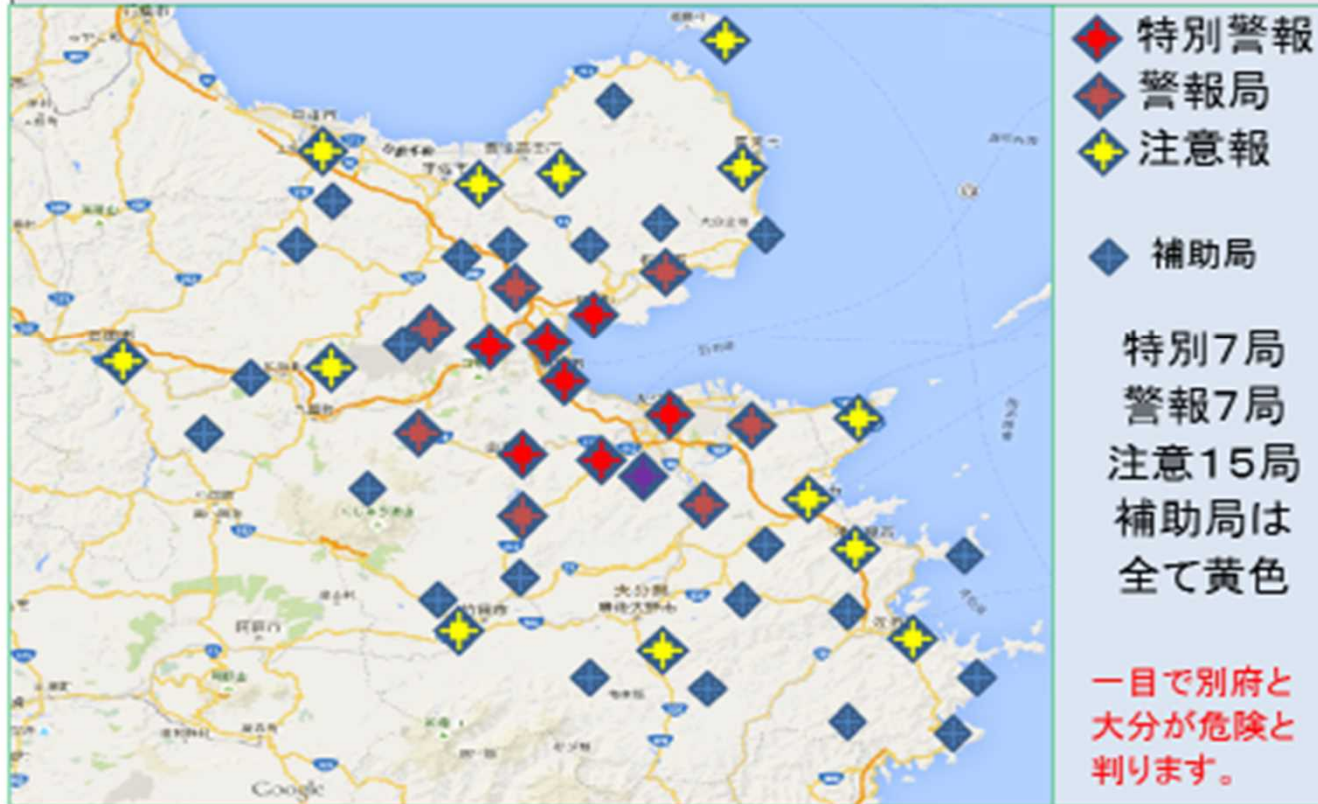
一部TVNewsから

こんな「予知情報」があれば！！

- 前震～本震で、亡くなった方は殆ど出なかったでしょう。
- 残念なのは「今後は余震に注意して下さい」と言うアナウンスで家に帰り、本震の震度7 & 連続震で亡くなった方々です。
- 如何に、正しい予測情報が必要か！という事が判ります。
- 当研の観測情報が生かされれば、命は助かったと思います。

大分県内36～50カ所観測網予想図(各局の異常色)で黄色は 要注意、赤色集中は直下が震源、異常レベルと範囲で「大きさ」が判明

「地震観測互惠ネット」での観測予想図(高崎山付近)
(赤)が特別警報局(橙)が警報局(黄)が注意局



気象庁の地震観測は全国600カ所の観測点からのデータを集めています。

他機関等を含め全国で3,900カ所に地震観測点があります。期待された地震警報は(直下型地震は間に合いません。)

しかし、

当観測網ができれば、ほぼ1週間前に、左図＝天気予報のように地震情報をご覧になれます。全国に広がれば、データの相互補完体制が完成します。

(各県に統括局を配置)

資料 1

地震予知の3原則は

いつ = 日

どこで = 県

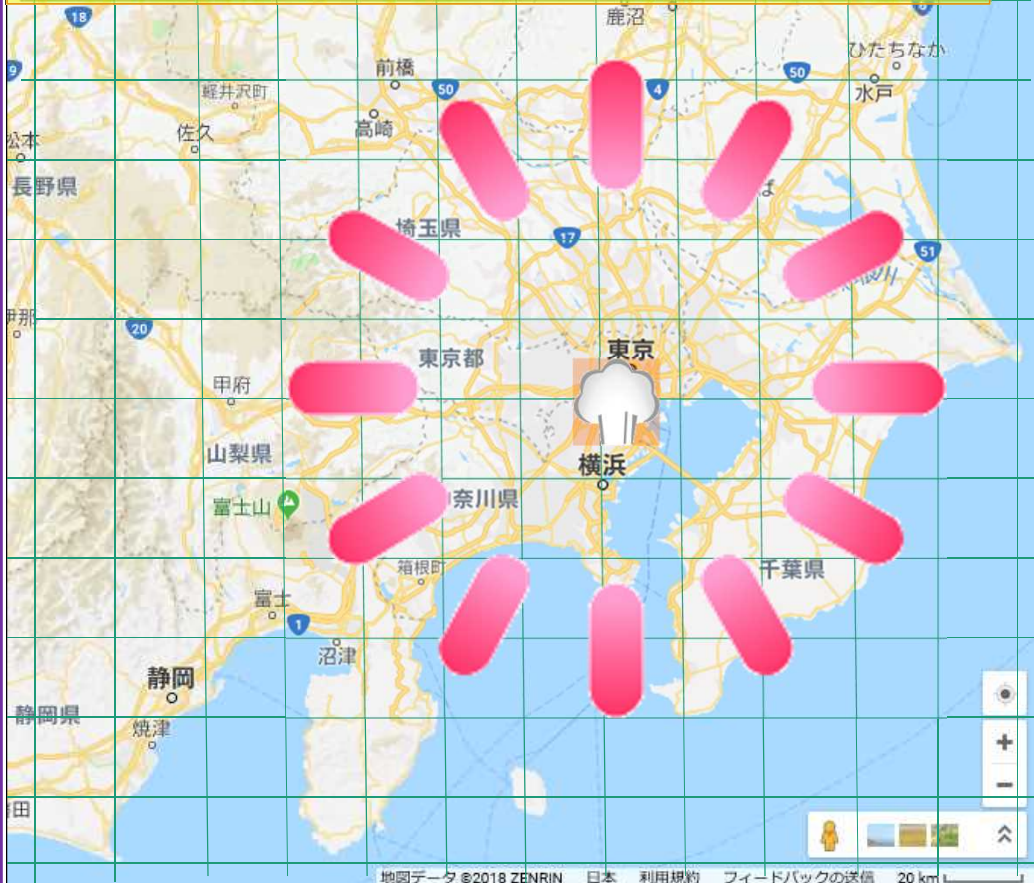
大きさ = 震度

経験則 = 計算式で

自動化 = 数値

配信 = 自動

- 電磁異常レベルが大きい = **地震が大きい**
- 電磁異常が早く出た = **震源地が近い**
- 電磁異常の間隔が狭まった = **地震が近づく**
- 感知日時同心円が広い = **震源が深い!**
- 電磁界・ノイズ・パルスも大事です。



電磁観測網図

- 関東地方
- 20 Km間隔
- 10 × 12 枠 = 120 枠
- ≒ 85 局 敷設
- 市区に 1 局
- 電磁観測から地震を正しく予知する方法は左上の○に掲載



- ・2007年 5月 災害情報学会、日本地震学会などに入会、その後、日本地球惑星科学連合学会入会
- ・2009年 5月 ハムの月刊誌「CQ」で4月・5月にて研究会員募集、15名でJYAN研究会発足
- ・2009年10月 日本地震学会(京都大学)で地震電磁波などの新監視方式などを発表紹介
- ・2011年10月 日本地震学会(静岡)で地震に関する電磁気などの発生と異常理論を発表
- ・2012年 8月 東京ビッグサイトのハムフェアに出展(この年から、毎年展示に参加～連続6回)
- ・2013年 7月7日 JYAN大分ネット第2回総会で研修会 10月2日 産経新聞夕刊「1面トップ」でJYAN研紹介
- ・2014年 3月14日 伊予灘で地震発生全面記録 12月25/26日 日本地震予知学会(電通大)で2項発表
- ・2015年 5月25日～26日 JGUの学会大会(幕張)でFM電磁波観測による潮汐同期等の2項を発表
- ・2016年4月14&16日 熊本地震でM7クラスが2回発生する事を観測で予知できたのはJYAN研のみでした！
- ・2016年12月5日 日本地震予知学会のニューズレター第3号に2Pで当JYAN研が紹介されました。
- ・2017年3月5日 西日本ハムフェアで熊本の観測状況講演 同年5月26日JGU学会大会で熊本地震発表
- ・2017年6月8日 産経新聞にJYAN研が大きく紹介されました。8月月刊誌「CQ」に4PでJYAN研活動が紹介
- ・2017年10月25日 日本地震学会(鹿児島市)で熊本地震での地震観測状況などを詳しく発表しました。
- ・2017年12月25日 日本地震予知学会で熊本地震での地震観測状況などを講演したいへん好評でした。

学会等の発表及び講演 日本地震学会5回、JpGU4回&講演22回(2017-5JpGU発表済み)

記事=CQ6回新聞4回 観測網は全国で50局が(200波)を観測中！ 東京晴海のハムフェアは6年連続
地震予知アマチュアネット(地震前兆ノイズ研究会・会員ML等350名超・大分県国東市)

JYAN研究会&地震予測観測網等々 会 長 JH6ARA 國 廣 秀 光